

木地師文化 フォーラム

==== 2024 ====

参加無料
申込不要

令和6年7月15日(月・祝)

13:00~15:00(12:00開場)

木地師やまの子の家(地図裏面)

東近江市発祥と言われる木地師文化は、森の守り人、文化の伝播者、そして何より、椀・盆など日常生活に不可欠な木の器の生産者である木地師が全国各地で支えてきた漆器文化を含む「木をいかす文化」です。今回の木地師文化フォーラムでは、明治時代以降の近代産業の発展にも寄与したと言われる木地師の知恵と技術についてお話しいたします。

「ろくろ技術の拡大と

近代産業の発展」

きむら ひろき
木村 裕樹さん

立命館大学食マネジメント学部 准教授



1995年立命館大学文学部地理学科卒業。1998年立命館大学大学院文学研究科博士前期課程地理学専攻修了。2006年総合研究大学院大学博士後期課程比較文化学専攻単位取得退学。2010年総合研究大学院大学より博士(文学)。専門は民俗学、民具研究。漆器産地と木地師との関わりを出発点として産業史の観点から木地師の文化について研究を進める。



《林業遺産》

木地師文化発祥の地

「東近江市」



木地師という生業の起源は約1200年ほど前に遡ると言われています。第55代「文徳天皇」の第1皇子として生まれながら、皇位継承争いにやぶれ、数人の側近とともに都を離れ、小椋谷(現在の滋賀県東近江市)にたどり着いたと言われる惟喬親王。法華経の巻物の「巻軸が回転する原理」から轆轤(ろくろ)を思いつき、その技術を家臣の「小椋・大蔵」などの一族へ伝えたのが始まりと言われています。



問い合わせ

東近江市企画部企画課

滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

TEL 0748-24-5610 FAX 0748-24-1457

E-mail kikaku@city.higashiomi.lg.jp

主催

東近江市・木地師のふるさと発信事業実行委員会

講話 13:20-14:50 3F階段教室

「ろくろ技術の拡大と近代産業の発展」

木村 裕樹さん 立命館大学食マネジメント学部 准教授

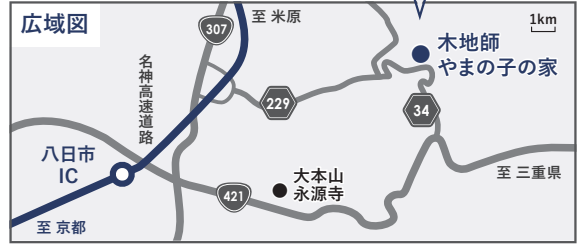
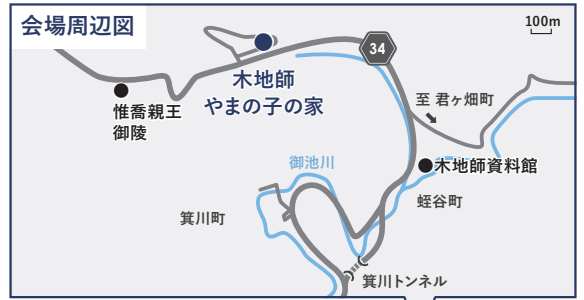
木地師の製品は、江戸時代まで椀や盆などの漆器の木地が中心でした。明治時代になるとそればかりでなく、紡績木管や万年筆などの近代産業や洋風の生活様式と結びついた多種多様な挽物が生み出されます。木地師も手引きろくろから足踏みろくろへ、動力も人力から水力や電力へと変遷し、西洋からもたらされた旋盤も普及します。ろくろ技術の拡大とともに近代産業の発展に貢献した木地師の活動を紹介します。



会場



木地師やまの子の家
滋賀県東近江市蛭谷町342番地2

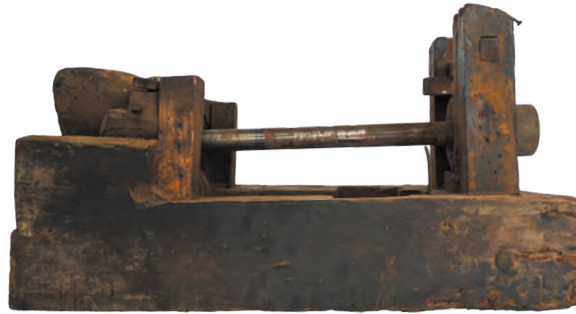


〈タクシーをご利用の場合〉近江鉄道八日市駅から約45分
〈お車をご利用の場合〉名神高速道路八日市ICから約35分

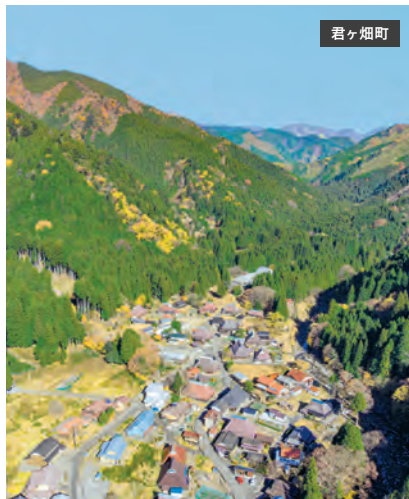
木村 裕樹さん研究業績「会津漆器産地における木地屋の集团的性格と木地屋集落の変容」『歴史地理学』43(4)、「近代における山中漆器の沿革と惟喬親王像の創出」『京都民俗』24、「西三河岡崎の足踏み式轆轤と木地職人」『近畿民具学会年報』30、「復活する伝承—現代における山中漆器の沿革をめぐる新しい動き」『京都民俗』25、「鈴木式轆轤の普及と担い手の顕彰—明治後期・大正期の福島県会津地方を中心に」『民具マンスリー』42(10)、「木地屋「根元地」の近代」『年中行事論叢—日次紀事からの出発』岩田書院、「韓国の轆轤—日韓比較に向けての予備的考察—」『立命館食科学研究』4, 2021など

挽物製品や木地師の道具を展示します! ▶▶ 12:00-16:00 1Fホール

表面の写真は紡績機械に使用する糸巻きやペッパーミルなどの近代挽物です。万年筆も近代挽物で、現代の暮らしも多く挽物製品に支えられています。右は足ふみろくろの一部(ろくろ部分のみ)。使用当時の削りくずがみられます。



蛭谷町



君ヶ畑町

